

株式会社 KIT



# Oracle 接続プラグイン ユーザーズガイド

## はじめに

この度は弊社ソフトウェア『RADEN Oracle 接続プラグイン』をご購入いただき、誠にありがとうございます。

Oracle プラグインは RADEN に Oracle データベースに接続する機能を追加するソフトウェアです。  
ご使用になるには、事前に RADEN デザイナーをインストールしておく必要があります。

本書では RADEN Oracle 接続プラグインの使用方法について説明します。

### 著作権および商標について

RADEN は、（株）KIT の登録商標です。

Microsoft および Windows は、米国マイクロソフト社の米国、および その他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

本書の一部または全部を許可なく複製、複写、転載することを禁止します。

Copyright (c) 2014 KIT Co., Ltd. All Rights Reserved.

## 目次

|       |                          |   |
|-------|--------------------------|---|
| 1.    | Oracle 接続プラグインについて ..... | 1 |
| 2.    | 追加される部品.....             | 1 |
| 3.    | プラグインを使用する.....          | 1 |
| 3.1   | 部品の配置.....               | 1 |
| 3.2   | 接続の設定.....               | 2 |
| 3.3   | データベースとの接続 .....         | 3 |
| 3.3.1 | データストアとの接続 .....         | 3 |
| 3.3.2 | テーブル情報の取得 .....          | 4 |
| 3.3.3 | テーブル情報の更新 .....          | 6 |
| 3.4   | データベースとの切断 .....         | 7 |
| 4.    | 部品リファレンス.....            | 8 |
| 4.1   | Oracle 接続.....           | 8 |



# 1. Oracle 接続プラグインについて

Oracle 接続プラグインは、Oracle データベースに接続する機能を RADEN に追加するプラグインです。既存の Oracle データベースに接続し、データの取得・更新が出来ます。

## 2. 追加される部品

Oracle 接続プラグインをインストールすることで、以下の部品が使用可能になります。

| 種類      | 名称        | 概要                        |
|---------|-----------|---------------------------|
| プレースホルダ | Oracle 接続 | 外部の Oracle のデータベースと接続します。 |

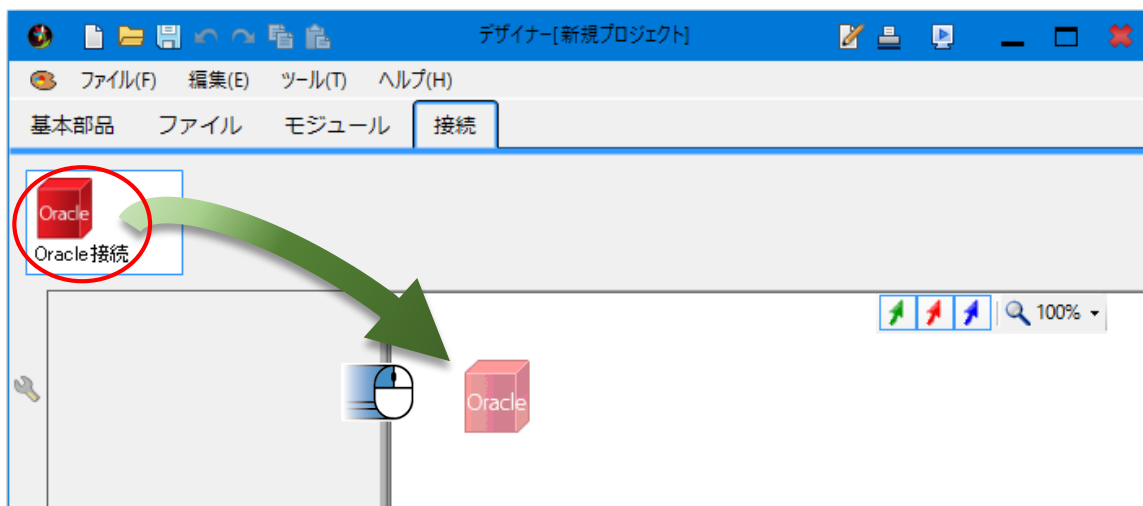
## 3. プラグインを使用する

この章では、Oracle 接続プラグインの基本的な使い方を説明します。

### 3.1 部品の配置

RADEN デザイナーのオブジェクト関連図に接続部品を配置します。

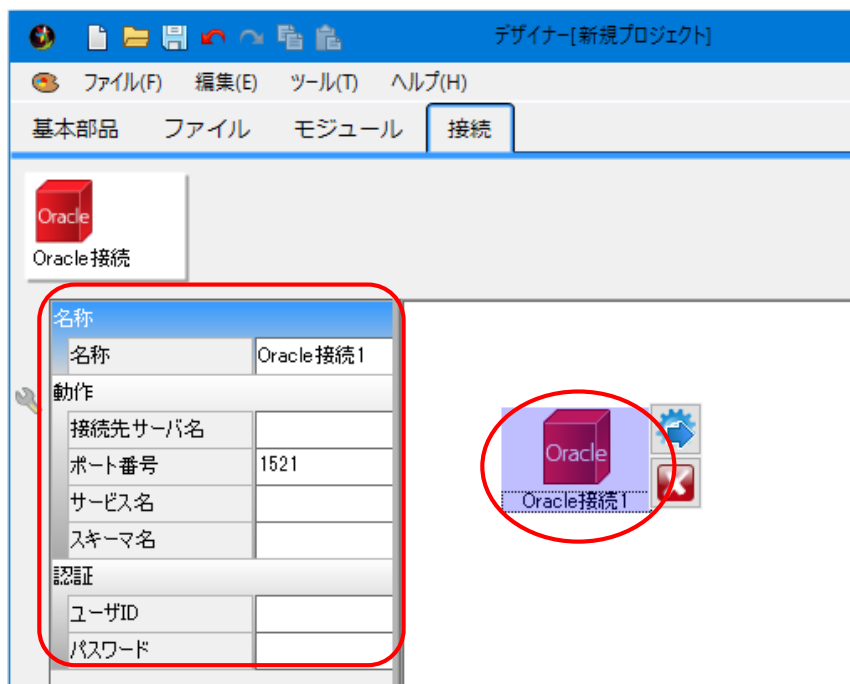
「画面」や「ファイル入力」等の RADEN の他のオブジェクト部品と同様に、部品パレットからオブジェクト関連図エリアに接続部品をドラッグ&ドロップします。



## 3.2 接続の設定

Oracle と接続するための設定は、接続部品のプロパティで行います。

オブジェクト関連図に配置した接続部品を選択すると、RADEN デザイナーのプロパティグリッドに設定項目が表示されます。



接続に必要な項目をプロパティから設定します。

設定内容の詳細は、「4. 部品リファレンス」をご参照下さい。

### 3 プラグインを使用する

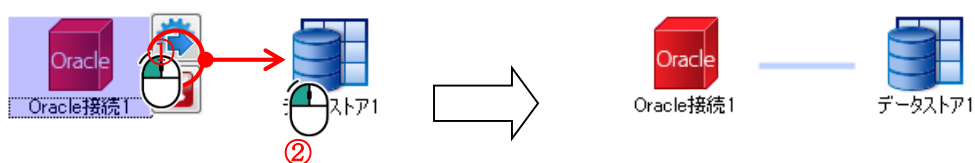
#### 3.3 データベースとの接続

Oracle 接続部品は、データストアと接続して使用します。

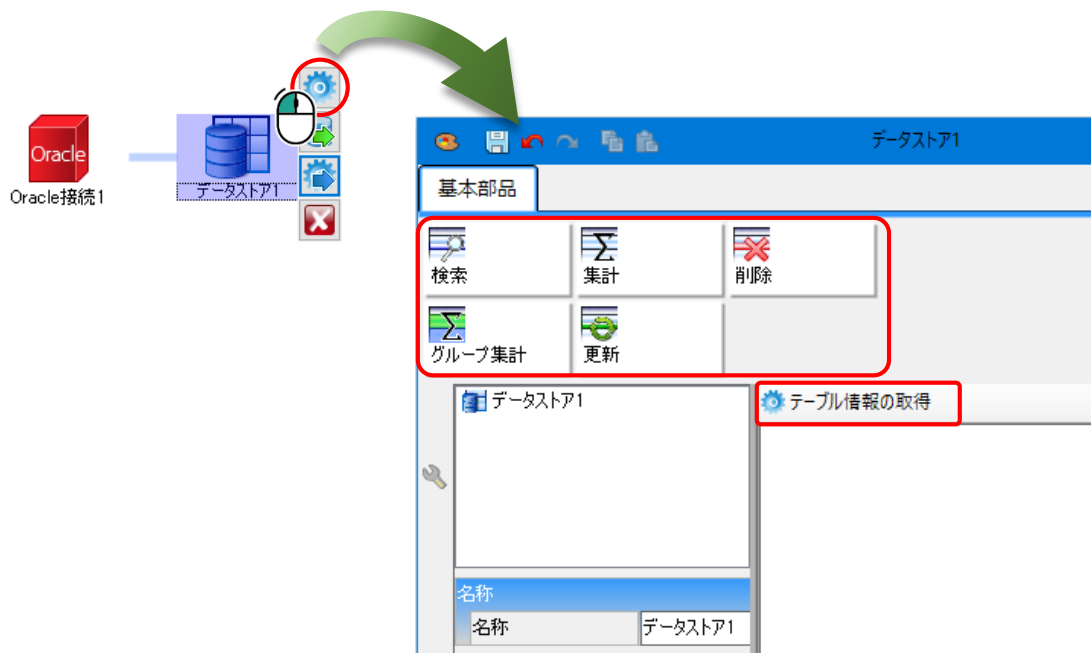
Oracle 接続部品とデータストアを参照コネクタで接続することで、接続されたデータベースの情報を活用できるようになります。

##### 3.3.1 データストアとの接続

Oracle 接続部品からデータストアへ、以下の様に参照コネクタを接続します。



Oracle 接続部品を接続したデータストアは、接続先のデータベースを扱う専用のデータストアとなります。そのため、標準のテーブル部品（一時テーブル/テーブル）は使用できなくなります。部品パレットには、テーブル部品が表示されなくなり、クエリのみ表示されます。



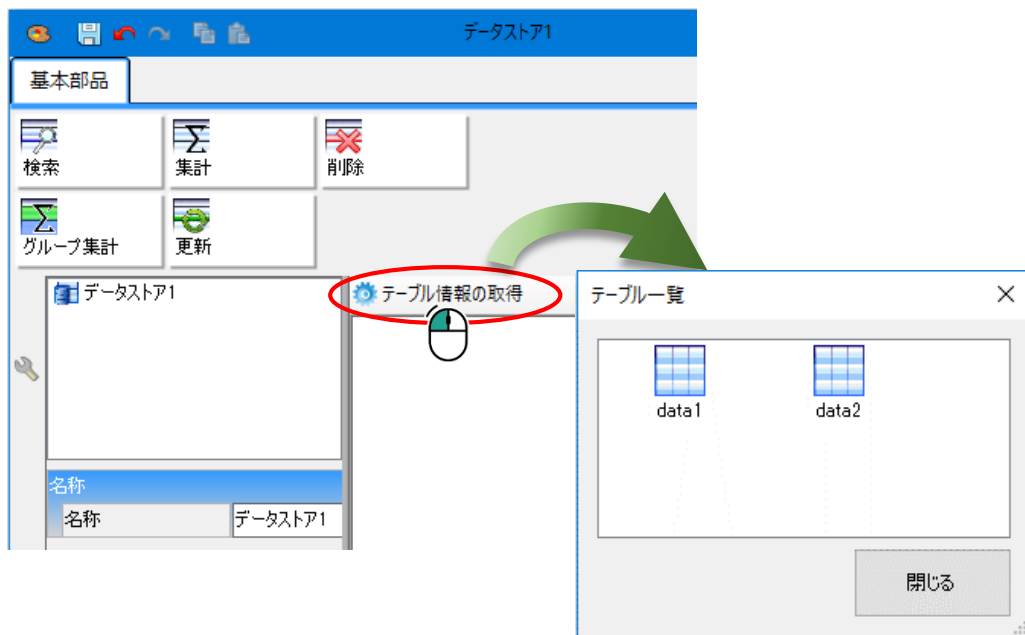
テーブルは接続先のデータベースのテーブル情報を参照して使用します。使用方法は次項で説明します。

### 3.3.2 テーブル情報の取得

Oracle と接続中のデータストアでは、接続先のデータベースからテーブルの情報を取得して、使用します。

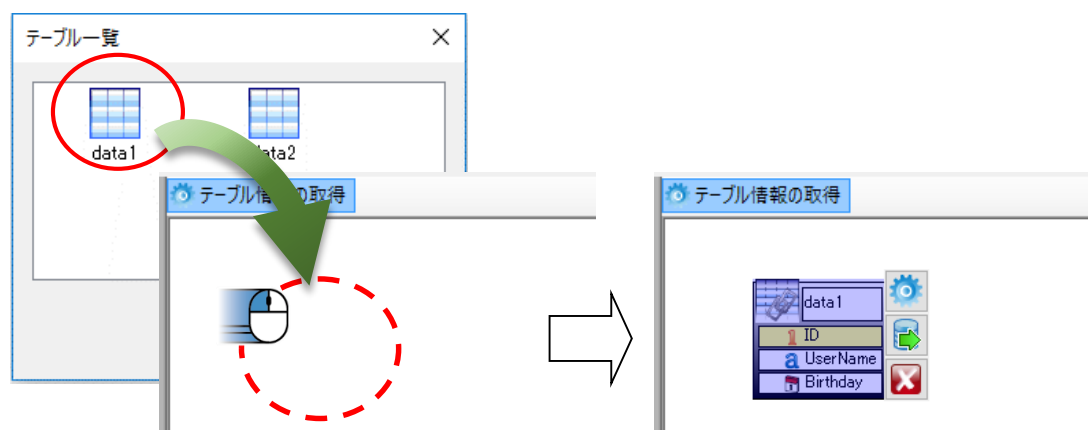
テーブル情報は、以下の手順で取得します。

- (1) データストア編集画面の「テーブル情報の取得」を選択します。



テーブル一覧画面が表示されます。

- (2) テブル一覧画面から、使用したいテーブルをデータストア編集画面にドラッグ&ドロップします。

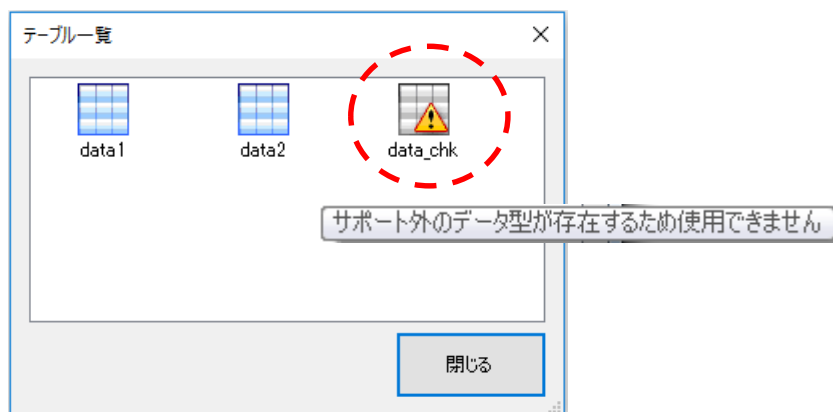


データストアのオブジェクト編集エリアにテーブルが配置されます。

取得したテーブルは、標準のテーブルと同じように、追加・更新・削除といった操作を行えます。ただし、RADEN 側からテーブル構造の変更は行えません。

### 3 プラグインを使用する

サポート外のデータ型を含むテーブルが存在する場合、RADEN では使用できません。



データ型対応表

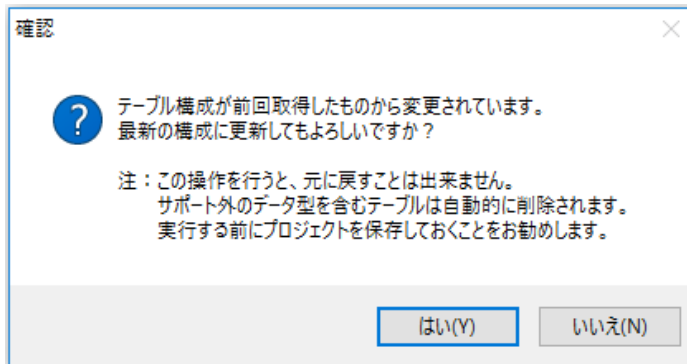
| Oracle |                                | RADEN |      | 備考                     |
|--------|--------------------------------|-------|------|------------------------|
| 属性     | データ型                           | サポート  | データ型 |                        |
| 文字     | VARCHAR2                       | ○     | 文字列  |                        |
|        | NVARCHAR2                      | ○     |      |                        |
|        | CHAR                           | ○     |      |                        |
|        | NCHAR                          | ○     |      |                        |
|        | LONG                           | ○     |      |                        |
|        | CLOB                           | ○     |      |                        |
|        | NCLOB                          | ○     |      |                        |
| 数値     | NUMBER                         | ○     | 数値   |                        |
|        | BINARY_FLOAT                   | ×     |      | テーブル情報取得不可             |
|        | BINARY_DOUBLE                  | ×     |      | テーブル情報取得不可             |
| 日付     | DATE                           | ○     | 日付   | -4712/01/01-9999/12/31 |
|        | TIMESTAMP                      | ○     |      | 秒単位まで                  |
|        | TIMESTAMP WITH TIME ZONE       | ×     | —    | タイムゾーンが扱えない            |
|        | TIMESTAMP WITH LOCAL TIME ZONE | ×     | —    | タイムゾーンが扱えない            |
|        | INTERVAL YEAR TO MONTH         | ×     | —    | 年、月                    |
|        | INTERVAL DAY TO SECOND         | ×     | —    | 日～秒                    |
| バイナリ   | RAW                            | ×     | —    |                        |
|        | LONG RAW                       | ×     | —    |                        |
|        | BLOB                           | ×     | —    |                        |
| その他    | BFILE                          | ×     | —    |                        |
|        | XMLTYPE                        | ×     | —    |                        |
|        | ROWID                          | ×     | —    |                        |

### 3.3.3 テーブル情報の更新

接続先のデータベースのテーブル情報が変更された場合、対応するテーブルの情報も更新できます。

データベースの構成が変更された状態で「テーブル情報の取得」を行うと、自動的にテーブル構成の比較が行われます。

変更が見つかった場合、以下のメッセージが表示されます。



「はい」をクリックすると、参照テーブルの情報が最新のテーブル構成で更新されます。

※テーブル名が変更されていた場合、元の参照テーブルは削除されます。新しく変更後のテーブルの参照を追加して、データリンクなどの再設定が必要となります。

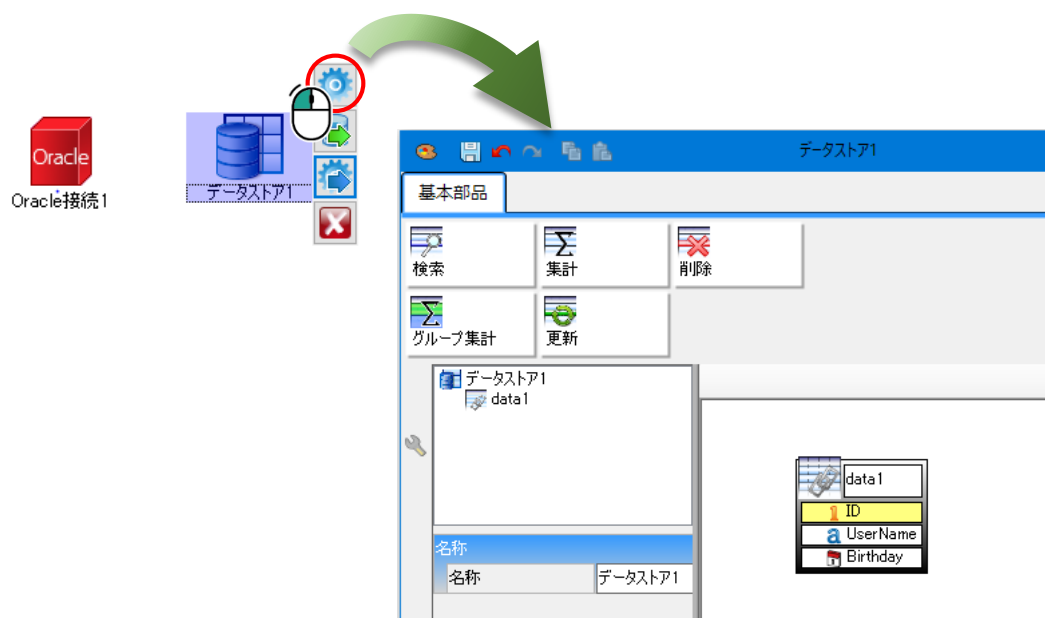
※フィールド名が変更されていた場合、そのフィールドを使用したデータリンクの設定は削除されます。

※フィールドがサポート外のデータ型に変更された場合、そのテーブルは自動的に削除されます。

### 3 プラグインを使用する

#### 3.4 データベースとの切断

Oracle 接続部品を削除、もしくはデータストアとの参照コネクタを削除した場合、Oracle との接続が切断されます。切断後、データストア内の参照テーブルは、標準のテーブルのようにローカルで 사용할 ことができます。



接続されている場合と同様にテーブル構造の変更はできませんが、初期データの設定は可能です。

# 4. 部品リファレンス

## 4.1 Oracle 接続

Oracle データベースに接続する為のオブジェクトです。

### ●プロパティ

 名称 

オブジェクトの名称を指定します。（標準値：Oracle 接続+連番）

 接続先サーバ名 

接続先のサーバを指定します。

 ポート番号 

接続先のポート番号を指定します。（標準値：1521）

 サービス名 

接続先のサービス名を指定します。

 スキーマ名 

参照するスキーマ名を指定します。

 ユーザ ID 

接続先データベースのユーザーID を指定します。

 パスワード 

接続先データベースのパスワードを指定します。

### ◇機能

機能はありません。

### □イベント

イベントはありません。



# Oracle 接続プラグイン ユーザーズガイド

---

2014年 4月 1日 第1版  
2015年 2月 1日 第2版  
2016年 4月 25日 第3版

発 行

**株式会社 KIT**

〒460-0026

愛知県名古屋市中区伊勢山2丁目11-15 ASビル金山

Copyright (c) 2014 KIT Co., Ltd. All Rights Reserved.